

- みなさん、おはようございます。
- さて、夏休みも終わりましたね。

▪ 今、これから、私は、皆さんが社会人になっても幸せに生きて  
いって欲しいという願いを込めて、冬休みが始まるまでのこれ  
からの4ヶ月間の過ごし方のコツをお話したいと思います。

▪まず、この4ヶ月間には、色々な取組がありますよね。

▪例えば、2年次生は修学旅行、卒業年次生は進路に関する採用選考等の試験、1年次生にとっては初めてとなる飛香里祭(文化祭)、また考査も2回あります。

▪この4ヶ月間の過ごし方のコツを、ズバリ言えば……………、  
「学校の生徒みんなが、お互いを支え合って、仲間を絶対に見捨てない、助けあう」という取組を、意識して徹底することです。

▪これを全員で、確実に、取り組むことが、これからのあなた方の人生を長い目で見たとき、必ず、全生徒は、一人も残らず、自分自身が得する生き方をしていくことになります。

▪以上が、これから話す内容の結論となります。

- では、このことを深く理解するため、具体的に話を進めます。
- はじめは、夏休み前の講話の復習です。
- さて、これから示す行動は「得する生き方」か、「損する生き方」か、どちらでしょうか？

授業中、隠れてスマホでゲームをしていた。  
友だちは気づいていたが、運良く先生には見つからずに楽しめた。

- 正解は「損する生き方」でした。
- その理由は、このような行為を行うと、この生徒は、
  - ①上手に人をごまかす、上手に怠けることを覚えていきます。
  - ②仮に、ばれたら、もっと上手にごまかす、もっと上手に怠けることに頭を回すようになっていきます。
  - ③さらに、自分さえ、その時が楽しければ、周囲の人がどう思うか関係ない人間になっていきます。(わがままになります。)

▪しかし、その生徒自身は「自分が損する生き方をして、自ら不幸な生き方を選択している」とは気づいていないと思います。

▪そこで、周りの人は、是非、声をかけてください。

▪声のかけ方は色々です。例えば、「それ、やばいよ！」とか、「それ、長い目でみたら、絶対損する生き方だと思うよ！」とか、「それって、不幸になる道を進んでいるんじゃないの！？」などあるでしょう。

- ところで、これに関連して本校の良さって何だと思えますか？
- それは、本校の生徒は、毎日、家から学校に通い、同じ仲間と顔と顔を付き合わせて、学び合い、生活していることです。
- だからこそ、その「一緒にいる」という価値を活かして、みんな  
で顔と顔を合わせたコミュニケーションを”前向きな価値観“の  
中で行って、支え合い、サポートしあう関係を大切にして欲しい  
のです。

▪続いて別のクイズです。

▪今年、新潟産大附属高校の野球部は甲子園大会に初出場し、埼玉県代表の花咲徳栄高校(ちなみに、こちらの高校は、5年前の甲子園大会の優勝校で、全国的な強豪校です。)そこに2-1で勝利しました。また、その後の試合では、本大会の優勝校となる京都国際高校に0-4敗れました。

さて、この野球部員にとって、この経験は「得する生き方」、「損する生き方」、どちらに繋がっていくと思いますか？

▪ こう質問をすると、何も考えずに「得する生き方」と回答してしまいがちですが、必ずしもうそうでないケースも過去にはあったようです。

▪それは、例えば、若さ故に、世間からチヤホヤされると、天狗になってしまい、勘違いした生き方、つまり結果的に「損する生き方」になってしまった選手も、過去の歴史のなかにはあったようです。

▪しかし、皆さんの仲間とも言える、柏崎から甲子園に出場してくれたこの選手らは、必ず「得する生き方」に繋がっていくと強く感じています。

・それは、かつての全国大会優勝校・花咲徳栄高校と戦っての勝利、そして、敗れはしたものの、本大会の優勝校となっていく高校・京都国際高校と戦った経験。

・そこから、選手らは、諦めないことの大切さ、そして、やれば出来るという自信など、生きていく上での大切な価値を数多く学んだことと思います。

・その学びは、これからの人生における大きな財産になると考えるからです。

▪また、選手らは、ブラスバンドを始め、多くの人々の大声援もあって、自分の持つ力を思う存分発揮することが出来た！と実感しているはずです。

▪そこから、選手らは、周囲の人々に対する“感謝の気持ち”を心から理解して、一層、人間的な魅力を高めてくれたと思います。

▪これらのことは、選手のその後の生き方を支えてくれるものとなりますよね。

▪つまり、選手らは、今回の経験を「得する生き方」に繋げてくれたものと、私は考えています。

- けれども、ここで勘違いしないでください。

「得する生き方」は、甲子園出場というような、私たちと遠いところにある特殊な経験をした人だけが得るものでは無いということなのです。

- 実は、私たちの身近なところにも、「得する生き方」は普通にありることを理解してください。
- それは、次の例え話で理解できると思います。

お祭りに行ったら、道に1万円が落ちていたので、警察に届けた。

- これも復習的になりますが、……
- この場合、この人は、「正しいことをした！」という自信、また、「落とした人に届けば良いな～」という優しさ、これらを強くしていくわけです。
- このような「より良い行動」を繰り返すことが、積もり積もって、「得する生きたか」を、確実に、自分のものにしていくと私は考えています。

- このような「得する生き方」をみんな目指していきましょう。
- 仮に「損する生き方」を選んでいる仲間を感じたら、声を掛け合ってください。そして、「損する生き方」をやめさせるように関わり、「得する生き方」に導いて欲しいと願っています。
- そのとき「クラスの誰一人も見捨てないぞー！」「全員で助け合っていくぞー！」と考え、全員で取り組んで欲しいのです。

▪それが、みんなが高校に通い、一カ所に集まって学んでいる価値でもあり、長い目で見て、社会人になっても皆さんが幸せになっていける方法だと信じています。

▪繰り返しになりますが、冬休みまでの4ヶ月間は、修学旅行、進路に関する採用試験、飛香里祭、考査等と、人それぞれありますが、日々の場面場面で、「お互いを支え合う、仲間を絶対見捨てない、助けあう」ことを徹底してください。

▪これを皆さんに期待して、講話をおわります。